

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 27 年 3 月 26 日 (2015.3.26)

【公開番号】特開 2013-164278 (P2013-164278A)
 【公開日】平成 25 年 8 月 22 日 (2013.8.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-045
 【出願番号】特願 2012-26082 (P2012-26082)
 【国際特許分類】

G 0 1 P 15/10 (2006.01)
 H 0 1 L 41/18 (2006.01)
 H 0 1 L 41/187 (2006.01)
 H 0 1 L 41/08 (2006.01)
 H 0 1 L 41/09 (2006.01)

【F I】

G 0 1 P 15/10
 H 0 1 L 41/18 1 0 1 A
 H 0 1 L 41/18 1 0 1 D
 H 0 1 L 41/18 1 0 1 B
 H 0 1 L 41/08 Z
 H 0 1 L 41/08 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 2 月 4 日 (2015.2.4)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ベース部と、前記ベース部に継ぎ手部を介して接続された可動部と、を有するカンチレバーと、

前記ベース部と前記可動部とに固定された物理量検出素子と、を備え、

前記カンチレバーは、前記可動部に設けられている凹部内に配置される第 1 支持台部と、前記ベース部に設けられている凹部内に配置される第 2 支持台部と、を有し、

前記物理量検出素子は、振動梁部の一方の長手方向端部に接続される第 1 基部と、他方の長手方向端部に接続される第 2 基部と、を有し、

前記第 1 支持台部と前記第 1 基部、及び前記第 2 支持台部と前記第 2 基部が、接着剤を介して固定されていること、
 を特徴とする物理量検出器。

【請求項 2】

前記第 1 支持台部は、前記振動梁部の長手方向に交差する方向に空隙を有して分割されており、

前記第 2 支持台部は、前記振動梁部の長手方向に交差する方向に空隙を有して分割されていること、

を特徴とする請求項 1 に記載の物理量検出器。

【請求項 3】

前記第 1 支持台部と前記第 1 基部とを固定する接着剤は、前記可動部に設けられている

前記凹部の内部に連続して存在し、

前記第 2 支持台部と前記第 2 基部とを固定する接着剤は、前記ベース部に設けられている前記凹部の内部に連続して存在していること、

を特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の物理量検出器。

【請求項 4】

前記カンチレバーと前記物理量検出素子は、前記接着剤を介して厚み方向に所定の隙間を有して固定されていること、

を特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれか一項に記載の物理量検出器。

【請求項 5】

前記凹部は、前記第 1 支持台部の周囲から前記第 2 支持台部の周囲にわたって連続して形成されていること、

を特徴とする請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか一項に記載の物理量検出器。

【請求項 6】

前記継手部は、前記可動部の第 1 主面と前記第 1 主面に対向する第 2 主面の両方に形成される溝部によって形成されており、

前記凹部の深さは、前記可動部の第 1 主面側の溝部の深さより浅いこと、
を特徴とする請求項 5 に記載の物理量検出器。

【請求項 7】

請求項 1 ないし請求項 6 のいずれか一項に記載の物理量検出器と、
前記物理量検出器を収容するパッケージと、
を備えていることを特徴とする物理量検出デバイス。

【請求項 8】

請求項 1 ないし請求項 6 のいずれか一項に記載の物理量検出器と、
少なくとも物理量検出回路と、
を備えていることを特徴とする電子機器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

【特許文献 1】米国特許第 4766768 号明細書